

## 研修会報告

平成 30 年 6 月 18 日

文責：櫛引 友孝

研修会名：生物化学分析部門研修会

テーマ：「免疫検査を一步踏み込んで考える」

開催日時：平成 30 年 6 月 16 日（土曜日）14：00 ～17：10

会場：東北大学医学部 6 号館 1 階 講堂

<プログラム>

### 【会員発表】

「cobas8000 e801 を用いた甲状腺関連 3 項目の基礎検討」

東北医科薬科大学病院 検査部 古川結菜 氏

「cobas8000 e801 の使用経験」

東北医科薬科大学病院 検査部

副臨床検査技師長 小堺利恵 氏

### 【講演 1】

「イムノアッセイの非特異反応を考える～メーカーの立場から～」

講師：ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社 山田 洋一 先生

### 【特別講演】

「免疫血清検査における異常反応への気づきと対応」

講師：東京慈恵会医科大学附属第三病院 中央検査部

技師長 阿部 正樹 先生

生涯教育点数：専門 20 点

参加者 会員 40 名、賛助会員 16 名、講師 4 名（実務委員 1 名含）、実務委員 6 名、  
学生 1 名、非会員 1 名 計 67 名

### 【内容】

今回の研修会は「免疫検査を一步踏み込んで考える」をテーマとして免疫検査に関する基礎的な知識から非特異反応に遭遇した際に気づくポイントや対応などを学びました。

はじめに、会員発表として東北医科薬科大学病院の古川氏と小堺氏から cobas8000 e801 を用いた甲状腺の 3 項目の基礎検討および機器の使用経験についての発表でした。

甲状腺項目に関して、キャリブレーション頻度は添付文書上において定められていますが今回の検討では 1 ヶ月間測定し続けた場合のデータを比較することで実際のデータの推移を確認することができたので興味深い内容でした。また cobas8000 e801 の処理速度は cabas e411 に比べ格段に優れているため TAT 短縮やそのほかメリットが挙げられ、当院で機器選定する際には参考にしたい内容でした。

続いてロシュ・ダイアグノスティクス株式会社 山田洋一先生よりメーカーの立場から

免疫アッセイの非特異反応を考えるとという内容で、前半は免疫検査に対する基礎的な知識、後半は非特異反応について講演して頂きました。これまで非特異反応を最小限にするために様々な改良をしているが、現在でも抗体を用いる治療薬を使用している場合には抗体が抗原をマスクしたり、薬物自体がエピトープと似た構造をしているために反応性が変わるといったことが起こりうるため、非特異反応を考えるには患者の投薬状況を知ることが重要なことだと説明して頂きました。

特別講演では東京慈恵会医科大学附属第三病院中央検査部技師長の阿部正樹先生から免疫血清検査における異常反応への気づきと対応について講演して頂きました。異常反応かどうか考える際には患者情報も重要な要素であり、年齢・性別なども見つける手がかりとなりうるとのことでした。異常反応の実例を吸収試験などの結果を交えて紹介して頂きましたが、希釈直線性と回収試験はどこの施設でも実施可能だと教えて頂きました。測定技術は進歩していますが非特異反応は起こりうるもので、それを考慮したうえで検査を進める必要があります、異常な反応を見出すことは不正確な検査結果を報告することを阻止し、最終的に患者の利益につながるのだと感じました。